

2017年9月
1130号

百葉

Manyoh

一冊の会 編集部

〒160-0015 東京都新宿区大京町5
(一冊の会研究室)

新しい歴史への^{ずいそう}瑞相の雨 ～南相馬市に復興祈念樹を植樹～

“^{ずいそう}瑞相”とは、めでたい出来事が起きる前触れ、吉兆、明るい兆しのことです。2017年9月28日、恵みの雨が降る中、レソト王国大使館と共に南相馬市北泉海浜公園に復興祈念樹を植樹いたしました。相馬周辺は、一冊の会永久最高顧問であり初代の日本レソト王国友好協会会長である、故相馬雪香先生所縁の地です。日本レソト王国友好協会は2008年5月モシシリ首相来日の折、一冊の会永久最高顧問である故相馬雪香先生・故園田天光光先生と共に設立いたしました。その意志を一冊の会大槻会長が引き継ぎ二代目会長に就任、さらなる友好を深めることができたことは、ひとえに代々の首相、大使を始め、大使館の皆様のお蔭です。

東日本大震災が起こって以来6年半、私共はレソト王国と共に東北被災地の各地に支援を続けてまいりました。特に昨年11月、レソト王国国王・王妃両陛下が来日され福島県相馬市をご訪問いただき、復興を象徴する願いをこめた「雪香プロスパーポローニャ」を植樹され被災者と触れ合い温かく励ましてくださいましたことは望外の喜びです。

故相馬雪香先生にちなんだ名前を冠した「雪香プロスパーポローニャ」はたいへん成長が早い桐で、復興が早く進むようにとの願いを込め、東日本大震災での津波の被災地全ての市町村に植樹することを目指しております。また、『被災者に心を寄り添い続ける』その気持ちを大切に一冊の会では昨年「ハンカチプロジェクト」として、日本全国、世界各国から被災者への励ましのメッセージをハンカチに書いて頂き、それを被災者へと支援物品と共に伝え、被災者にもメッセージをハンカチに書いて頂き、国連に報告する活動をいたしました。一冊の会の被災地への支援活動訪問は118回を超え、その持続的な支援活動は今や世間に注目され、まさしく草の根の活動が人々の心を動かし、大きなうねりとなって歴史をも変えようとしているのです。

来年、福島県で全国植樹祭の開催が予定されておりますが、南相馬市はその会場となります。南相馬市は東日本大震災の折、放射能物質の被害により避難指示が出され、昨年7月市内の大部分が解除されたばかりです。その地で全国植樹祭に先立ち復興を象徴する願いをこめた「雪香プロスパーポローニャ」の植樹ができたことは大変喜ばしく、常に時代の先を考え行動をしてきた一冊の会がつかんだ巡りあわせと感じます。

南相馬市へは、大槻会長、小山副会長、鬼童事務局次長、平間理事補が向かいました。東日本大震災から6年半。未曾有の大震災から断固と立ち上がった相馬市。途中相馬市役所の秘書課に立ち寄り相馬の復興再生の起爆剤となる活動に最敬礼。また、レソト王国国王王妃両陛下がお手植えされた祈念樹の場所にも立ち寄りました。すくすくと成長している姿に安堵いたしました。天気予報は雨でしたが、なんとか小雨のなか植樹会場に到着し、さあ、始めよう——とその時、突然の大雨！



相馬市役所にて横山秘書課課長と打ち合わせ



昨年、レソト国王王妃両陛下が植樹された復興祈念樹、雪香プロスパーポローニア

しかし、一冊の会にとって雨は悲しむべきものではありません。以前、タンザニアのチアロ大使をおもてなししていた際に雨が降ってきたので、申し訳ないとお伝えしたところ、「アフリカでは雨は吉兆だ、これからさらに友好が深まるだろう、素晴らしい。これは恵みの雨だ!」と大喜びになったとのこと。その言葉を聞いてから、一冊の会にとって雨は恵みの雨、全てを洗い流す慈悲の雨、未知の世界に飛び込む時の不安を払しょくする吉兆を示してくれる瑞相ずいそうの雨となったのです。

ありがたいことに、南相馬市の職員が植樹する場所にテントを3か所にも張ってくださっていたおかげで、式典は滞りなく進めることが出来ました。

大槻会長が植樹を縁にさらなる交流と支援を図りたいと挨拶。レソト王国大使館と一冊の会から南相馬市へ記念品を手渡しました。桜井勝延南相馬市長からも歓迎の言葉をいただきました。



レソト王国大使館からは、レソトハットを。一冊の会からは、平間理事補佐より自身の作品をお贈りしました。



右から5人目：レソト王国大使館 シャオ書記官
右から6人目：桜井勝延南相馬市長

今回の南相馬市への祈念植樹は常に時代の先を考え行動をしてきた一冊の会の活動の代表的なものです。今後も被災者の強い復興への想いを持続して支え常に心を寄り添って参ります。

またレソト王国大使館との連帯を固く持ち、日本とレソト王国の友好が今後も続き、益々関係が深まるよう着実に歴史を刻んで参ります。

文責：赤田 城杉 平間